

座標空間において、 $xy$  平面上の原点を中心とする半径 1 の円を考える。この円を底面とし、点  $(0, 0, 2)$  を頂点とする円錐 (内部を含む) を  $S$  とする。また、点  $A(1, 0, 2)$  を考える。

- (1) 点  $P$  が  $S$  の底面を動くとき、線分  $AP$  が通過する部分を  $T$  とする。平面  $z = 1$  による  $S$  の切り口および、平面  $z = 1$  による  $T$  の切り口を同一平面上に図示せよ。  
 (2) 点  $P$  が  $S$  を動くとき、線分  $AP$  が通過する部分の体積を求めよ。

(20 東京大理 5)

【答】

- (1) 略  
 (2)  $\frac{2}{3}\pi + \frac{2}{3}$

【解答】

- (1) 点  $(0, 0, 2)$  を頂点とする円錐  $S$  の底面は、点  $O(0, 0, 0)$  を中心とする半径 1 の  $xy$  平面上の円である。この円を  $C_0$  とおく。

平面  $z = 1$  による  $S$  の切り口は、点  $(0, 0, 1)$  を中心とする半径  $\frac{1}{2}$  の円の周および内部である。

線分  $AO$  と平面  $z = 1$  の交点の座標は  $(\frac{1}{2}, 0, 1)$  であり、点  $P$  が底面  $C_0$  を動くときの線分  $AP$  が通過する部分  $T$  の平面  $z = 1$  による切り口は、点  $(\frac{1}{2}, 0, 1)$  を中心とする半径  $\frac{1}{2}$  の円の周および内部である。

平面  $z = 1$  による  $S, T$  の切り口を同一平面 ( $z = 1$ ) 上に図示すると、右下図の斜線部分となる。境界も含む。

- 円錐  $S$  は

$$x^2 + y^2 \leq \left(\frac{2-z}{2}\right)^2, 0 \leq z \leq 2$$

と表すことができる。

平面  $z = 1$  による  $S$  の切り口は

$$x^2 + y^2 \leq \left(\frac{1}{2}\right)^2, z = 1 \quad \cdots \cdots \textcircled{7}$$

と表すことができる。また、平面  $z = 1$  による  $T$  の切り口の点  $Q$  の座標を  $(x, y, 1)$  とおくと、 $S$  の底面  $C_0$  の周および内部を動く点  $P(X, Y, 0)$  は

$$\vec{OP} = \vec{OA} + 2\vec{AQ}$$

であり、 $x, y$  で表すと

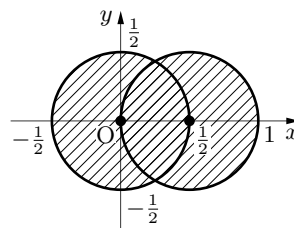
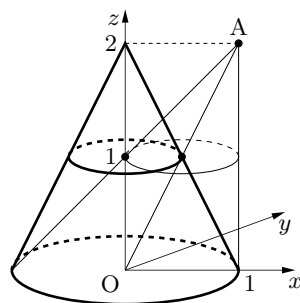
$$\begin{aligned} (X, Y, 0) &= (1, 0, 2) + 2(x-1, y, -1) \\ &= (2x-1, 2y, 0) \end{aligned}$$

である。 $P(X, Y, 0)$  は  $X^2 + Y^2 \leq 1$  を満たすから、 $T$  の切り口は

$$(2x-1)^2 + (2y)^2 \leq 1, z = 1$$

$$\therefore \left(x - \frac{1}{2}\right)^2 + y^2 \leq \left(\frac{1}{2}\right)^2, z = 1 \quad \cdots \cdots \textcircled{8}$$

と表すことができる。2つの切り口  $\textcircled{7}, \textcircled{8}$  を同一平面 ( $z = 1$ ) 上に図示すると、解答の図となる。



(2) 点 P が円錐  $S$  (内部を含む) を動くとき, 線分 AP が通過する部分を  $D$  とおき, その体積を  $V$  とおく.

点 P が円錐  $S$  と平面  $z = k$  ( $0 \leq k \leq 2$ ) の共通部分  $C_k$  の周および内部を動くときを考える.  $0 \leq k < 2$  のとき,  $C_k$  は点  $O_k(0, 0, k)$  を中心とする半径  $\frac{2-k}{2}$  の円の周および内部であり,  $k = 2$  のとき,  $C_k$  は頂点  $(0, 0, 2)$  と A を結ぶ線分 (両端も含む) である.

$0 \leq k < 2$  のときを考える.

点 P が円  $C_k$  の周および内部を動くとき, 線分 AP が通過する部分の平面  $z = t$  ( $k \leq t < 2$ ) による切り口を  $C_{k,t}$  とおく. 線分  $AO_k$  と平面  $z = t$  の交点は線分  $AO_k$  を  $(2-t) : (t-k)$  に内分する点であり

$$\begin{aligned} & \overrightarrow{OA} + \frac{2-t}{(2-t)+(t-k)} \overrightarrow{AO_k} \\ &= (1, 0, 2) + \frac{2-t}{2-k} (-1, 0, k-2) \end{aligned}$$

であるから, この座標は  $(1 - \frac{2-t}{2-k}, 0, t)$  である.

すなわち,  $C_{k,t}$  は点  $(1 - \frac{2-t}{2-k}, 0, t)$  を中心とする半径  $\frac{2-t}{2-k} \cdot \frac{2-k}{2} = \frac{2-t}{2}$  の円の周および内部である.

$t$  を固定して,  $k$  を  $0 \leq k \leq t$  の範囲を動かすとき, 円  $C_{k,t}$  の

$$\text{半径は一定値 } \frac{2-t}{2}$$

であり,  $1 - \frac{2-t}{2-k}$  は  $k$  について減少関数であるから

$$\text{中心の } x \text{ 座標は } \frac{t}{2} \text{ から } 0 \text{ まで減少}$$

する. したがって,  $D$  の平面  $z = t$  ( $k \leq t < 2$ ) による切り口  $D_t$  は,  $k$  が  $0 \leq k \leq t$  の範囲を動くときの円  $C_{k,t}$  が通過する領域であり, 右の図の斜線部分のようになる. 境界も含む.

$D_t$  の面積を  $f(t)$  とおくと

$$\begin{aligned} f(t) &= \pi \left( \frac{2-t}{2} \right)^2 + 2 \left( \frac{2-t}{2} \right) \cdot \frac{t}{2} \\ &= \frac{\pi}{4} (t-2)^2 - \frac{1}{2} t(t-2) \end{aligned}$$

である. よって

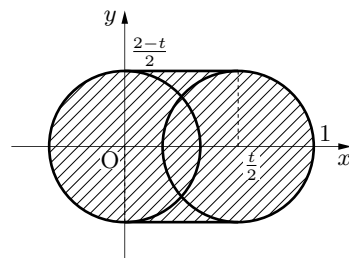
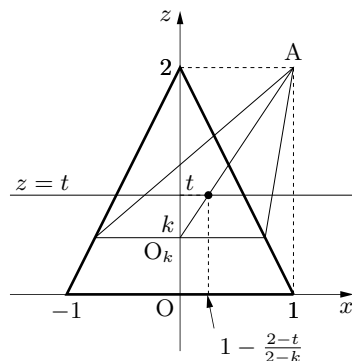
$$\begin{aligned} V &= \int_0^2 f(t) dt \\ &= \frac{\pi}{4} \int_0^2 (t-2)^2 dt - \frac{1}{2} \int_0^2 t(t-2) dt \\ &= \frac{\pi}{4} \left[ \frac{1}{3} (t-2)^3 \right]_0^2 + \frac{1}{2} \cdot \frac{(2-0)^3}{6} \\ &= \frac{2}{3} \pi + \frac{2}{3} \end{aligned}$$

……(答)

である.

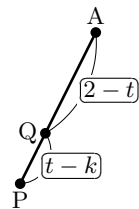
● 円錐  $S$  の平面  $z = k$  上の点  $P(X, Y, Z)$  は

$$X^2 + Y^2 \leq \left( \frac{2-k}{2} \right)^2, Z = k \quad \cdots \textcircled{\ast}$$



を満たす. 線分 AP と平面  $z = t$  ( $k \leq t \leq 2$ ) との共有点を  $Q(x, y, t)$  とおく.  $P(X, Y, k)$ ,  $A(1, 0, 2)$  の  $z$  座標に注意すると, 点 Q は線分 AP を  $(2-t) : (t-k)$  に内分するから

$$\begin{aligned}\overrightarrow{OP} &= \overrightarrow{OA} + \frac{(2-t) + (t-k)}{2-t} \overrightarrow{AQ} \\ &= (1, 0, 2) + \frac{2-k}{2-t} (x-1, y, t-2) \\ &= \left(1 + \frac{2-k}{2-t} (x-1), \frac{2-k}{2-t} y, 2 + \frac{2-k}{2-t} (t-2)\right) \\ &= \left(\frac{2-k}{2-t} \left(x - \frac{t-k}{2-k}\right), \frac{2-k}{2-t} y, k\right)\end{aligned}$$



である.  $X, Y$  は⑦を満たすから

$$\begin{aligned}\left\{\frac{2-k}{2-t} \left(x - \frac{t-k}{2-k}\right)\right\}^2 + \left(\frac{2-k}{2-t} y\right)^2 &\leq \left(\frac{2-k}{2}\right)^2 \\ \therefore \left(x - \frac{t-k}{2-k}\right)^2 + y^2 &\leq \left(\frac{2-t}{2}\right)^2\end{aligned}$$

したがって, 線分 AP が通過する部分の平面  $z = t$  ( $k \leq t < 2$ ) による切り口  $C_{k,t}$  を表す式は

$$\left(x - \frac{t-k}{2-k}\right)^2 + y^2 \leq \left(\frac{2-t}{2}\right)^2, \quad z = t$$

である. 以下, 解答と同じである.